

今年の秋、青森西高校のおおもり創造学の授業で、青森の温泉の話をする機会をいただいた。

おおもり創造学とは青森県教育委員会主導で行われているプロジェクトで、県内全県立高校の生徒が地域課題の解決や、地域の魅力発信に取り組む活動だ。

青森西高校では1学年を対象に、青森未来創造プロジェクトとSDGsの視点から青森の未来を考えるをテーマに、津軽塗、青森藍、こぎん刺し、カシス、ねぶた、りんご、三内丸山遺跡、温泉文化の八つの分科会(ゼミ)に分かれ、私が担当する温泉文化は、温泉が抱える課題発見・魅力発信がテーマだ。

一回目の授業では青森県の温泉の概要、二回目の授業では事業承継され

た外ヶ浜町の山の湯平館不老死温泉の女将にお話してもらった。青森県

リレーエッセイ

日々想

沓掛 麻里子②

おおもり創造学×温泉

繕費、電気代などの価格の高騰も要因のひとつだ。それでも温泉を守るため、保育士から女将になった熊野さんに、事業承継の経緯や温泉を維持していく難しさややりがいを語ってもらった。そして私からは暮らしにもっと温泉を取り入れることで地域の温泉を支えら

いい温泉ステッカーが完成した。以前、藤崎町の喜龍温泉玉乃湯の温泉ステッカーをAIを使って作って見たところ、思った以上に簡単に想像以上のものが作れ、しかもその温泉ステッカーを買い取ってわざわざ温泉に足を運んでくれた方がいた。もっと

足を運んで頂き、青森の温泉の多様性とすばらしさに気付く人が増え、入浴人口が増えたらなお嬉しい。それが本当の目的なのだ。温泉ステッカーを一度作ればタオルやTシャツなどにもそのデザインを使うこともでき、温泉グッズの幅が広がる。温泉

れることをお話しした。第三回目は課題解決の為になにができるか考え、第四回目、第五回目は温泉グッズの作成にとりかかった。AIを使って温泉の写真をイラスト化した後、一人一枚温泉のステッカーをデザインしてもらった。初めてAIを使う生徒も多かったがみんな違ってみんな

いろんな温泉のステッカーを作って欲しいという声も届いた。入浴料金が480円だとして、そこからの少ない利益だけで修繕費などを賄うことは容易ではないので、微々たる金額かもしれないがグッズの収益で少しでも売り上げの足しになればと思う。そして温泉ステッカー目あてに各温泉に

施設の方がデザインすることはできなくても、温泉を応援したいと思ってる人が間に入ることで、しかもAIを使うことで簡単にグッズが作れる、今の時代ならではないかと思う。温泉を守っていくために、温泉を愛するいろんな人ができることを持ち寄って横につながれば、温泉の可能性は

もっと広がっていくと私は思っている。温泉ステッカーは、柏木温泉、高増温泉不動乃湯、沖館温泉、出町温泉、油川温泉、山の湯平館不

老死温泉、天然温泉和ノ湯、ボバイ温泉、つがる温泉で11月26日のいい風呂の日に発売開始予定。(青森の湯つこ協会代表、板柳町在住)



挿絵・長谷川幸子(青森市)